

世界旅打ち気分

●第77回・廃止されたペナン競馬場

須田鷹雄



写真1) ペナン競馬場にはJRAの広告も出されていた。



写真2) ペナン競馬場のスタンド。
左が冷房あり、右が冷房無し。



写真3) 冷房ありスタンドの中。
正直人は少なかった。

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

この連載も長くなってストックが無くなりつつあるが、アジアの競馬場で残った中からマレーシアの競馬場を紹介しよう。残念ながら、今後レースを見ることはできない競馬場である。

その競馬場とは、ペナン競馬場。残念ながらこの5月をもって廃止となった。

筆者が最初にペナン競馬場を訪れたのは2008年のこと。そのときは口ケ日程と開催日程が合わず、香港とオーストラリアのサイマル発売をしている日だった。

それでも場内にはかなりの人数が入っており、活気はあった。客層は正直良いとは言えず、日本という「昭和の、イメージが悪い競馬おやじたち」といった感じ。ただ、東南アジアの競馬場というのはたいしてそんなものもある。

このときはレースを見ることができなかつたので、いつかもう一度来よう……と思っていたうちに15年もの歳月が経ってしまった。ついに再訪したのは2023年のことだった。

このときはちゃんと事前に開催日程を調べ、土日連続で開催が予定されている週を狙った。航空券をとり、ホテルをとり、いよいよ出

発が近づいて発走時刻を確認しよう。ペナンターフクラブのホームページを訪れると、出馬表が無い。この時点で悪い予感を感じていたのだが、過去の発走時刻に近い時間に行けば大丈夫だろう……と思っていた。

そして土曜に競馬場に行ってみると、「今日の開催は中止になった」と衝撃の展開が。では翌日曜は？、というところでも中止になったという。頭数が確保できず、最近では中止も多いとのことだった。

オーストラリアの受けサイマルはやっていたので不本意に思いつつ馬券は買ったが、それでは08年の体験と変わらないのである。しかもこちらは土日連続開催のつもりでホテルもとってしまったのである。さすがに日曜日競馬場に出直すことはしなかつたが、今度は時間を持て余す。ペナンは観光地ではあるが正直時代遅れな観光地であり、そこまで見るべきところはない。落胆して帰国の途につくこととなった。

再リベンジを計画したのは2024年になってから。日曜にシンガポール・クランジ競馬場の打ち納め(同年秋の廃止が決まっていた

にいた客の姿は少なく、往時よりは来場者も減っているのだろう。推測だが、こちらの店は競馬が廃止になってサイマル専用になっても続くのではないかと思う。もともとサイマルのみの日も出店していたからだ。

肝心のレースはというと、5〜6頭立てが計5レースという、非常に寂しいものだった。売り上げが悪い↓賞金が下がる↓馬匹資源がなくなる、という典型的な手詰まりパターンである。マレーシアに3つある(あつた)競馬場のうちイポー競馬場からは輸送で競馬もできず十分な距離だが、わざわざ輸送する価値もなかつたのだろう。

ふと思いついて最終開催日となった5月31日の競馬を見てみると、さすがに最終日だけあつて7鞍が組まれ、フルゲート14頭立てのレースもあつたようだ。ただこの5月も4日と10日に予定されていた開催は中止。その前の開催は3月8日で、3〜6頭立て4鞍のみ。1、4月はずっと開催が組まれておらず2月は16日に予定されていた開催が中止。こうなると競馬場として生きているのか死んでいるのか……といった感じで、遅かれ早かれ

を入れ、土曜のペナンと組み合わせた。このときはさすがに知恵がついたので、出馬表が発表されるまで航空券もホテルも取らず、開催が確定した瞬間にすべてを手配した。

シンガポール経由でペナンに着き、GRAB(東南アジアでシェアの高い配車アプリ)で車を呼んで競馬場へ。これでやっていたらどうしよう……と不安だったが、幸い競馬はあった。三度目の正直だ。もう競馬は廃止になってしまったのでわざわざペナン競馬場に行く人はいないかもしれないが、香港やオーストラリアの受けサイマルは続けるようなので、一応スタンドの様子をお伝えしておく。入場料は2種類あり(サイマルでも取られる)、高いほうが冷房付きスタンド、安いほうは冷房無しスタンドである。前者を買えば後者エリアにも入れる。冷房エリアからパドックや外ラチ沿いには直接出られず、いったん入場門近くまで戻って非冷房エリアを経由しなくてはならない。

わざわざそんな動き方をする来場者はいないのだが、筆者はあちこち写真を撮るため動いていた。

廃止になっていたことだろう。

筆者が訪れた24年の時点で、呼りに呼んだGRABの運転手は「主催者はもう競馬なんてやる気はない。受けサイマルだけやっているほうが儲かるし、そちらに特化するつもりでいる」と語っていたのだが、彼の言葉は1年ほどで現実のものとなった。日本にいると分からないが、競馬というのはギャンブルのための乱数を発生するのに莫大なコストがかかる競技。一度傾き始めると終わりは早い。

この連載ではマレーシアの残る2つの競馬場、セランゴールとイポーを紹介したことがある。この2場は当面継続するし、シンガポールが廃止になったのでそこから人材を受け入れたり、シンガポールで馬券が売れるのではないかと(シンガポールも受けサイマルだけ継続する)と期待している。しかしこれまでにシンガポールから流れてきた馬匹資源が来ないとなると、どこから馬を仕入れなければならぬ。オーストラリアの安馬を買うといった手も考えられるが、馬匹資源不足がいずれマレーシアの競馬全体の廃止に繋がるのではないかと不安である。